

①日本国特許庁  
公開特許公報

①特許出願公開  
昭53—19580

⑤Int. Cl.<sup>2</sup>  
B 65 H 54/02  
H 01 B 13/00

識別記号

⑥日本分類  
60 B 011  
54 B 0

庁内整理番号  
6036—52  
6739—35

④公開 昭和53年(1978)2月22日

発明の数 2  
審査請求 有

(全 3 頁)

④平型ケーブルの巻き取り方法およびその巻き  
取りドラム

①特 願 昭51—93633

②出 願 昭51(1976)8月6日

⑦発 明 者 山中英次

沼津市双葉町9—1 藤倉電線  
株式会社沼津工場内

⑦発 明 者 増山悦昭

沼津市双葉町9—1 藤倉電線  
株式会社沼津工場内

⑧出 願 人 藤倉電線株式会社

東京都江東区木場1丁目5番1  
号

⑨代 理 人 弁理士 清水定信 外1名

明 細 書

1. 発明の名称

平型ケーブルの巻き取り方法及びその巻き取  
りドラム

2. 特許請求の範囲

- (1) ドラムの胴部にケーブルが直上に一列に重なるよう順次重ね巻きすることを特徴とする平型ケーブルの巻き取り方法。
- (2) 両端に胴部を有するドラムの胴部軸方向に仕切板により区切られたケーブル巻取部とケーブルガイド部を交互に設けたことを特徴とする平型ケーブルの巻き取りドラム。
- (3) 上記ケーブル巻取部はその幅を巻き取ろうとする平型ケーブルの幅に略々一致させたことを特徴とする特許請求の範囲第2項記載の平型ケーブルの巻き取りドラム。
- (4) 上記ケーブルガイド部は外周接線方向から渦巻き状にして胴部中心方向に延びるガイド底を有し、このガイド底の先端外周部分は隣接する左右の両ケーブル巻取部のうち、一方

の巻取部には仕切板に設けた切欠部を介して連通し、かつガイド底の胴部中心部分は他方の巻取部の胴部中心には仕切板に設けた切欠部を介して連通してあることを特徴とする特許請求の範囲第2項又は第3項記載の平型ケーブルの巻き取りドラム。

3. 発明の詳細な説明

本発明は、平型ケーブルの巻き取り方法及びその平型ケーブルを巻き取るのに有用な巻き取りドラムに関するものである。

平型ケーブルは、現在エレベータ用ケーブル等として、それまでの丸型ケーブルに取って代つて盛んに使用されているもので、その製造工程は一般に多数本の線芯を並列に並べ保護被覆を施し、更にその上に断面が略々長楕円状のプラスチックシースを押し出し成形し、しかる後これを完全に冷えきらないまだ温かいうちに第1図に示すようにドラムの胴に一層ずつ順次重ねて巻き取っている。

このように平型ケーブルをドラムに巻き取る

場合、丸型ケーブルを巻き取る方法と同じ方法で巻き取ると内側に位置する平型ケーブル(a)(a)の外側に重ね巻きされる平型ケーブル(b)は第2図に示すようなケーブル(a)(a)との境界に形成される窪みにケーブル(b)のシースが流れ出し、そのまま固まってしまう、ケーブル(b)の表面には不本意ながら突条(b)が形成されてしまうという欠点があつた。

そこで、このような事態に対処するため、シース成形後のケーブルを十分に冷えるまでの間一時大きなドラムに余裕をもつて巻き取り、数日おいてから製品ドラムに新たに巻き取る方法も提案されたが、この場合には大きなドラムの取扱いが不便な上、作業能率が悪くかつまた製品ドラムへ巻き直しの際にも巻きくせが付く虞れがあり、根本的な解決にはならなかつた。

本発明は、上述の実情に鑑み、外側に位置する平型ケーブルの表面に内側に位置する平型ケーブルによつて変形の生じない新規な巻き取り方法及びその巻き取りドラムを提供せんとする

## 3

1ないし第5ケーブル巻取部(5a、5b、5c、5d、5e)と第1ないし第4ケーブルガイド部(6a、6b、6c、6d)が交互に区切られる。

上記ケーブルガイド部(6a～6d)には外周接線方向から渦巻き状にして胴部中心方向に伸びるガイド底(7)が設けてあつて、これは好ましくは本実施例の場合のような曲板で形成するとよいが、これに限らず例えば軽量のプラスチック等を充填して形成してもよい。

(7a)(7b)は上記ガイド底(7)の先端外周部分と胴部中心部分で、この先端外周部分(7a)は本実施例において第1ないし第4ケーブル巻取部(5a～5d)一杯に巻き込まれ終つたケーブルがスムーズに第1ないし第4ケーブルガイド部(6a～6d)に導びかれるように仕切板(4)に設けた比較的切口の浅い切欠部(8)を介して第1ないし第5ケーブル巻取部(5a～5d)の外周に導通し、かつ上記胴部中心部分(7b)は上述のようにケーブルガイド部(6a～6d)から導びかれるケーブルが次の第2ないし第5ケーブル巻取部(5b

ものである。

本発明の一つは、ドラムの胴部にケーブルが直上の一列に重なるように順次重ね巻きする方法であり、本発明の他は、両端に胴部を有するドラムの胴部軸方向に仕切板により区切られたケーブル巻取部とケーブルガイド部を交互に設け、上記ケーブル巻取部に平型ケーブルを同心状に重ねて巻き込みケーブルの変形を避けるとともに、一つのケーブル巻取部に巻き終つたらケーブルガイド部を通じて他のケーブル巻取部にスムーズにケーブルを誘導するようにした巻き取りドラムにある。

以下、かかる本発明を図示の一実施例について説明する。図中、(1)は本発明に係る平型ケーブルの巻き取り方法を実施して有用な本発明に係る巻き取りドラムで、(2)はその胴部、(3)(3)は胴部(2)の両端の胴部、(4…)は上記胴部(2)の軸方向に適宜間隔、即ち巻き込もうとする平型ケーブルの幅に略々対応する間隔で嵌合された仕切板である。この仕切板(4…)によつて第

## 4

～5e)に移行できるように仕切板(4)に設けた切口の深い切欠部(9)を介して第2ないし第5ケーブル巻取部(5b～5e)の胴部中心に導通してある。

そこで、本発明の平型ケーブルの巻き取り方法であるが、まず、巻き取りドラム(1)の第1ケーブル巻取部(5a)にケーブルを同心状に一列に重なるようにして順次重ね巻きし、一杯に巻き終つたら外周のケーブルを仕切板(4)の切欠部(8)を通じて第1ケーブルガイド部(6a)に導びき、そしてガイド底(7)に沿つて巻き込んだケーブルを今度は仕切板(4)の切欠部(9)を通じて次の第2ケーブル巻取部(5b)に導びき巻き初める。以下同様にして順次他のケーブル巻取部(5c～5e)に巻き込めばよい。

以上の説明から明らかなように本発明に係る平型ケーブルの巻き取り方法及び巻き取りドラムによれば、外側に位置する平型ケーブルは内側に位置する平型ケーブルに何等影響されことなくケーブル巻取部に巻き込まれ、かつ各ケーブル巻取部間での移行はケーブルガイド部に

## 第3図

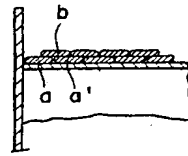
よりスムーズに行なわれるため、平型ケーブルに巻きぐせが付くことがなく、巻きぐせに伴なり欠点を全て解決できるという極めて実用的効果を期待することができる。

## 4. 図面の簡単な説明

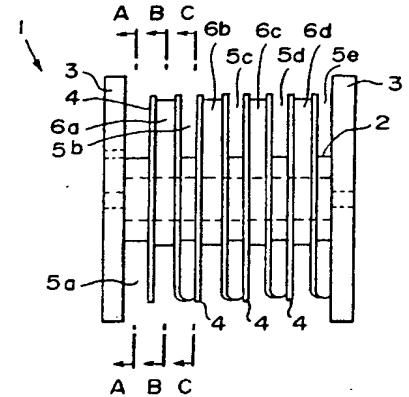
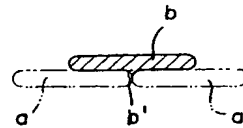
第1図及び第2図は従来の平型ケーブルの巻き取り状態を示した概略説明図、第3図は本発明に係る平型ケーブルの巻き取り方法を適用して有用な本発明に係る平型ケーブルの巻き取りドラムの正面図、第4図はその背面図、第5図は第3図A-A線断面図、第6図は第3図B-B線断面図、第7図は第3図C-C線断面図である。

(1) …巻き取りドラム、(2) …胴部、(3) …筒部、  
(4) …仕切板、(5a、5b、5c、5d、5e) …第1ないし第5ケーブル巻取部、  
(6a、6b、6c、6d) …第1ないし第4ケーブルガイド部、(7) …ガイド底、  
(7a)(7b) …ガイド底(7)の先端外周部分及び胴部中心部分、(8)(9) …切欠部。

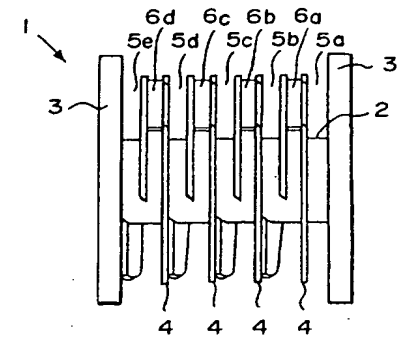
第1図



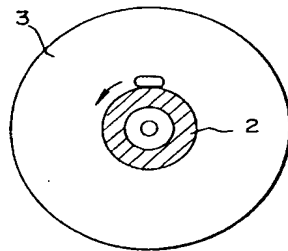
第2図



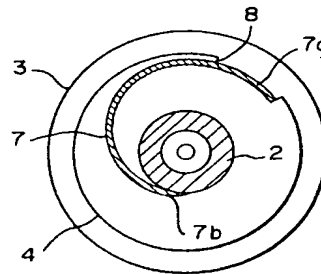
第4図



第5図



第6図



第7図

